

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者と極め細やかな交流を図ることによって、高齢者の抱く疎外感・閉塞感を取り除くために介護をとおして生活支援をする。	○	個々の生活歴を知った上で、今までの人間関係を尊重しながら、新しい人間関係を再構築していけるよう支援して行くこと。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者から職員への連絡のみならず、職員から管理者への報告・伝達・提案ができるように連絡ノートを利用して、管理者と職員と温度差が生まれないようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	1階のティールームを利用者のみならず家族、地域の人々に利用していただくことで、同じ地域に同じように暮らしていることを理解していただいている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	1軒の家として、町会員となり、管理者が代表で町会の運営に参加している。管理者として、利用者が地域の方々と自然にお付き合いできる様、配慮していくことが役目であると認識している。	○	規則正しい暮らし、しかもゆったりと気をつかわせない生活の維持を図っていくこと。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議を進めていく中、地域活動に参加することの重要性を話し合い、地元の人々に温かく受け入れていただけるよう少しずつであっても参加することで溶け込んで行きつつある。	○	地域主催の住民運動会に参加したり、小地域ネットワーク活動のサークルに出かけたりして、グループホームの事を知ってもらい協力を受けられやすい様働きかけている。

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>1階のティールームはいつも話しやすい場所となるよう心がけ、介護保険に関する情報等を提供し、担当事業所や担当ケアマネージャーへの結びつきに協力している。</p>	○	<p>地域住民に対し、広報等を利用したグループホーム発信話題作り等を通して、介護保険利用の質向上について協力していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>利用者の満足度を維持できる事業所でありたいと考えている。そのためには、評価を活かし、できるところから、改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>ともすれば、ルーチンワークに陥りがちな業務を評価を通して定期的に見直したり改善したりする機会であると捉え、今後もくりかえし体得していきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回開催している。地域の中で、グループホームがどのような役割をもつことができるのか、意見の交換をしている。</p>	○	<p>運営推進会議での内容を職員に話すことで、地域に開かれた組織として如何に生活支援をしていくか考える材料としており、今後スキル向上に寄与させていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>区のケアマネ会を通じて区内のサービス向上に取り組んでいる。</p>	○	<p>当グループホームが地域に要求されるホームと評価されるよう、運営推進会議委員の地域包括支援センターの職員、社協職員と連絡することで安定した運営をめざす。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>グループホームの管理者はコミュニティソーシャルワーカーとしての資格をもち地域福祉権利擁護事業を推進・支援する体制をとっている。また成年後見人が必要な方には支援している。</p>	○	<p>今後は選挙権を行使し、地域行政への関与も出来る様な体制作りを考えていきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>フロアーに入り、利用者の声と同様、職員の声にも耳を傾けるようにしている。利用者に朝の挨拶をすることにより、その日の心身状況を汲み取るようしている。</p>	○	<p>フィジカルロック、ドラッグロックについては完全に排除しているが、スピーチロックについては、時々無意識の中に出てくる職員もあり、尊厳を守ることの意義について、注意喚起を図っているところである。</p>

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関する説明と納得については十分時間をとって理解していただいている。契約時のみならず、日常的にいつでも利用者や家族の声が届き、こちらの意向が届くようにコミュニケーションを重要視している。</p>	<p>○</p> <p>互いの意思疎通を図り、ボタンのかけちがいのない様連絡には気配りをしている。今後ともこの対応は続行していく予定。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の不満の声を介護記録に残すとともに報告させ、その原因、解決の方法を考え軌道修正を加えながら実行することで利用者の精神的安定を図っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者への対応を話し合っても刻々と変化する利用者の状況にそれで良しとはならず、洞察力ある対応ができる様、スキルの向上に向けた職員教育を取り入れていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の広報誌を通じて事業所の生活を報告している。個々の生活の変化については、電話や訪問によって個々に報告を行い対応についての了解を得ている。</p>	<p>○</p> <p>毎月のホームたよりの執筆等利用者も参加出来る内容に充実させていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情受付窓口とし管理者が配置していることを契約時には説明している。また、どの様な苦情、意見でも常に表出できる機会を多く持つように心がけている。</p>	<p>○</p> <p>家族の意見、苦情については直ちに職員へ説明しその意向をふまえた意思疎通を図り改善に向けたとりくみをしている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者がフロアに入る機会を多く持ち、運営に関しての私見が話せるよう心がけている。</p>	<p>○</p> <p>私見であっても取り入れられるものはどんどん活用しているが、その運営について職員も自分の問題として展望をもった発言ができる様視野の拡充を図っている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>安全で円滑な生活援助ができるよう、必要な時間に、必要な人員を確保することに努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者へ不安を与えない人員配置に心がけている。</p>	

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>個々職員が夫々にスキルアップできるように課題を与え、日々トレーニングに努めている。</p>	<p>○</p> <p>職員が常にスキルアップしたいと思うような、組織作りをした</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>府社協の人材により、東住吉区内グループホームの管理者同士話し合う機会を設けている。また、相互訪問も行い質向上に向けてのスキルを図っている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が個々の特性を生かし、自らレクリエーションを充実させることにやりがいを感じている。職員が前向きな姿勢で業務にあたることで、利用者の生活を生き生きしたものにつなげる原動力と考えている。</p>	<p>○</p> <p>職員の思いについて、管理者が適宜カウンセリング的対応を図ることで自分に気づき、自分をとりもどし仕事に励んでもらっているが、この内容や時間的配分について考えて行きたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年に2回勤務査定をし、職員個々に面接することによって勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホームの理念を機会あるごとに話し浸透を深め、その実践が利用者の尊厳を守る事につながり、結果支えあって生活している事を体感する様対話の機会を多く持っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者および家族がどのような生活歴のすえ、当グループホームへ来られたのか、対話の内容から汲み取る努力を惜しまない姿勢でいる。そして、私共がどのように支援すれば、利用者および家族が今まで通り平穏な時期の生活を維持して行けるのかその方策を共に対話する事で解決方法を共に探し出している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>23項目に同じ</p>	

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者がどう生きたいのか見極めていけば、何を支援すればよいのか判断でき、他のサービスを提供する事がその人にとって必要であれば、そのサービスにつなげる援助をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	徐々に馴染むことが必要と判断されれば、そのように、また急を必要とされれば、そのように、つまり利用者および家族の要求にできる限りそえる姿勢で望んでいる。	○	順応力が低下している高齢者に、入居による環境の変化が不隠に結びつかない様、最初の3ヶ月間は特に留意した共感をもった支援に心がけている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が共に助け合いながら生活してる事を職員に理解させ、ホームの理念を一人一人と話し合う機会を持つ事、また職員会議の中で話し合ったりして、利用者と職員、どちらの立場が上でも下でもなく、若い年齢の職員の私達が、利用者から学ぶ姿勢をもちたいと思っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族とともに両輪の関係で利用者を支援できるように、情報の共有に心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の人間関係を取り戻すことができるように、支援していく。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を知り、近隣の場合は居住地域や関係の深い場所を訪れることによって、利用者の生活を感じ、支援に反映することを努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	配置する職員が常にそのことを考え、利用者の距離感に配慮している。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了された方の訪問をありがたいと受け止め、思い出を共有している。また運営推進会議の委員としても、今なお出席していただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がどう生きたいと望んでいるのかを代弁するライフプランを考えそれに沿った支援をしている。	○	日常生活のその人らしいデザインをケアプランにもりこみ、意欲が向上して行く事を目標とした支援をしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	常日頃ふとした会話の中よりその人の本音を汲みとる等、情報収集に心がけている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の思いを話せる雰囲気作りに努めている。話し上手より聞き上手を大切にすることに留意している。	○	コミュニケーションのあり方や傾聴する際、利用者と波長合せする等から本音を露出できる聞きとり方(情報収集)のスキルアップに向けた職員教育を図りたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議、また職員会議をとおり個々に職員が利用者のより良い暮らしを考え話し合う機会を多く持つようにしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	最低3ヶ月に一度のモニタリングを行い計画の進行状況について関係者間で話し合い計画の見直しを行っている。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間継続のケアをするためには、記録は正確に残し、報告・連絡・相談を徹底して繰り返して行く事が、計画の見直しにつながるかと理解している。	○	個別介護記録よりの情報を得ると共に気づき等、医療面から又介護支援専門員の立場からその都度気づきを記入し、職員へ情報提供を図り支援の統一に協力している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者及び家族の要望等に応じ各階の合同遊技や1階の機械浴・ティールーム、母体である河内長野市の特別養護老人ホームと連携を密にしている。	○	敬老会、夏の納涼祭その他特養へ遠足をかねて訪問し精神的にも楽しんでガスぬきをしている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通じて、地域資源との協働を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	グループホームと在宅とが気軽に出入りできたらと期待しているが、そのためには、在宅でのプランにその事が挿入されている必要があり、地域の介護支援センター事業所と協働していかなければ、実現できない課題がある。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の一員として地域包括支援センターより参加があり、地域における種々の情報提供を得る機会が定期的にある。	○	地域包括支援センターに登録されているボランティアの活用について話し合っているものの遅々として進まないところがあり、これをなんとか動機づけを図りたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等の意向をできる限りかなえる様に、通院同行・訪問医療時の同席等その結果を家族へ連絡する等で適切な医療が受療できる様支援している。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>精神科への通院同行をし、家族の代弁者として医師に生活状況を報告し診断治療を受けている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>計画作成担当者の保健師と訪問看護の看護師と共に、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院中、職員が家族に代って家事面での支援をしている。又、急性期が過ぎグループホームでの療養可能と医師の判断があれば退院を受け入れグループホーム内での療養生活を支援している。その他、日頃より病状の変化を見落とさず、必要であれば医師・看護師と話し合う機会をつくり、グループホームでの治療が可能な方法がないか、医師と検討している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に終末期のあり方について話し合っているが、実際は重度化していく中で、繰り返し話し合いを持つことで、利用者、家族の意向に沿った支援を行っている。</p>	○	<p>最終は病院入院となる機会が高いが、それに至るまでの間は死に向けた指導で個々に心理的な死・社会的な死を感じさせない環境作りの重厚化をすすめて行きたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>常日頃、取り組んでいる。特に利用者が心理的、社会的な孤立におちいらない様気づかいをしている。</p>	○	<p>「死に向けた準備教育」として職員に対応のあり方を今後行っていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えを検討されている方には、出来る限りの情報を提供し、住み替え先で介護される方にも、知りうる介護の情報を提供する姿勢でいる。</p>		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は書庫に直すよう努めている。	○ 言葉と心が連動している挨拶の仕方について職員教育を行う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	職員が一番重要な業務と考えているが、まだ職員サイド傾向もみられ、自己決定の尊重を話し合っている。	○ 利用者の失語症や判断力低下から本人の意向が職員サイドになる事があり、利用者の尊厳を守るためにも自己決定が前面に出るような介護体制を図って行く。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日をどのように過ごしたいか、自ら表出できる利用者は少なく、だからこそ職員が演出する中で、自分の思いを表せるように働きかけたり、自分で決めていただけるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	専属の理容室へ共に行き整容する人、当グループホームへ出張ある理美容師により整容する人、職員により毛染めする等それぞれの好みにあわせて対応している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	活躍していただける場面設定を考えながら生活援助している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みに沿えるよう、配慮している。	

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の記録を継続的にみることで、自立に向けた支援をしている。	○	トイレでの排泄姿勢を観察することで自力排泄に無理のない様介護機具等の導入を図っている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴していただけるよう準備している。足浴を午前中することで、下肢の浮腫軽減、疲労回復を図っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の居室空間を尊重し、むやみやたらに入室しない。入室の際には、許可を得てから入室する等心くばりしている。	○	寝床気候にそった環境で安眠に寄与している。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が活き活きとした表情で暮せるよう、提供すべき内容について常に思考錯誤している。	○	レクリエーション内容、散策、外食、誕生日会等委員会を設け常に利用者中心に考えている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々に支援している。	○	商店街にもっと頻繁に同行したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿えるよう十分な人員配置・家族の協力・成年後見人の協力等、微力ではあるが支援している。	○	歩くことを運動としての距離をみるのか、景色を眺める心理的な楽しみとみるのか、生活の中でQOLの向上をめざした取り入れを考え支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホームの年間行事の中で河内長野市へ出かける機会をつくったりしている。また、家族とスムーズに外出できるよう配慮している。そうすることで社会的に家族から離され孤立しているとの感じが深まらない様支援している。	○	常に安全を確保した外出を提供したい。

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に支援している。	○	個々にグループホームたよりで利用者の状況把握が家族になされており、そこから出発した情報交換を行っているため、感情の空白や疎外感なく対話できている事はとてもよい雰囲気作りに貢献している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間を決めない事で、気持ちよく来訪していただけるようにしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護側の判断で身体拘束はされていない。但し整形外科医師の股関節脱臼医療から開排制限をしなければ脱臼を再発する利用者に対してのみ家族への説明で実施していたが見守り強化でそれもはずす様とくんでいる。	○	安全を優先するために抑制される場合は、利用者への十分な説明と、家族の理解また同意をうけ、どんな環境のときにどのくらいの時間抑制されていたのか、記録に残し治療状況と照らし合わせ過重抑制にならぬ様配慮している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけているが、あくまで安全確保のためであり、「外にいききたい」との意向時には職員が同行している。フロアーから離れられない時は、その理由を説明し暫時待つて頂きその後意向にそって行動している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	出来ている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	出来ている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の身体状況を常に把握し、起こりうる事故防止にむけた話し合いを進めている。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員が個々に訓練をしているが、グループホームとして定期的には行っていない。バイタル測定の方法についてはその都度指導徹底している。	○	救急処置マニュアルに沿った実技訓練を全職員に指導していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年2回受ける事で、その重要性を再認識している。また、地域活動における年末防犯夜警などに参加することで、地域の協力が得られるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族との話し合いの中、対応策を模索している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護職員が記録を残すと共に、保健師、管理者にすみやかに報告され、対応につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録には現在服薬中の薬名が記載され、職員一人一人が薬効を理解し正しく服薬する事を守り、服薬後の副作用等症状の変化には観察強化を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	保健師の指導の下、職員一同取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床及び就寝前と毎食後の口腔衛生を取り入れて、義歯等も含め歯みがきを実施。	○	食前の嚥下防止予防運動を毎日昼食時に実施出来る様支援して行きたい。

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量を日々、記録することで、利用者の状態を知り、それをふまえた支援をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、保健師の指導の下行っている。うがい手洗いの励行実施。	○	感染マニュアルをフロアーに常在し、消毒方法等の徹底を図っているが、日頃の室内清掃、整理等にも、その意義についての理解を深めたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材管理は管理者、介護主任、栄養管理担当者等複数でチェックしている。また、台所、調理用具等の衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ティールームへの出入り口が間口がひろく、また自動ドアであるため、入りやすい雰囲気を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々にあった椅子や作業テーブルの配置を行い、共用空間で過ごす時間を多く持つように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二人で座れるソファールをおいている。		

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が納得されるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階ティールーム、4階踊場、3階ユニットと建物内部の移動をすることによって、気分転換となる空間作りをしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	読書、ぬり絵作り、家事での担当等、自分から出来る部分へ積極的に参加し、それが自分の担当であるとの意識を持ち行動しており、自分から意見等の発言でこちら側が考えさせられることもある。	○	全利用者に自分の持ち場を担当してもらい、それに従事する事で意欲の涵養を図りたい(今の所少人数で終わっているため)。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階南側、4階の踊り場に園芸を楽しめるスペースを用意している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ぐるーぷほーむ泰昌園(2階ユニット)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者がどう生きていきたいと願っているかを受けとめ、出来る限り支援していく姿勢でいます。そのためには、営業してから3年目になりましたが、今後とも安定し継続した日常の暮らしが提供できるよう、日々サービスの向上を目指して運営していくよう職員達は理念を共有しスキル向上をめざして支援活動に取り組んでいる。特に、認知症進行でコミュニケーション不足の利用者には、室内に閉じこもらずフロアにて過ごせる様な好みの椅子、テーブルの配置、その他賞讃の声かけによる笑顔の維持に留意した対応に心がけている。